

茨木市『つどい、つながる文化の会議』で 市民主体の文化活動の基盤づくりを共創 ～ 人を育て、文化芸術を通じた「まちづくり」を促進 ～

文化施設の運営・文化振興に関連するコンサルティング業務を展開するサントリーパブリシティサービス株式会社(本社:東京都江東区、代表取締役社長:千大輔、以下 SPS)は、大阪府茨木市主催の市民参加型プロジェクト「令和 7 年度 つどい、つながる文化の会議(全 6 回)」の企画・運営を実施しました。本プロジェクトは、茨木市文化振興ビジョン(第 2 期)※1 の一環として、市民や文化芸術団体が新たなつながりを築き、「文化的コモンズ」※2 の形成を促進することを目的としています。

※1)[茨木市文化振興ビジョン\(第 2 期\)](#)

※2)地域の共同体の誰もが自由に参加できる入会地のような文化的営みの総体



1. プロジェクト2年目は“学びとつながり”で次年度の実践へ

茨木市が進める「文化的コモンズ」形成に向け、SPS は初年度に続き、令和7年度も茨木市と共創しながらプロジェクトを企画・運営しました。初年度は、市民同士が協力してイベント企画に挑戦し文化活動を生み出す場を創出。今年度は次のステップとして、市民が『市民アートコーディネーター※3』として成長するために、情報発信力やネットワーク形成に必要なスキルを学ぶプログラムを実施しました。講義や視察、グループワークを通じて、文化芸術と他分野との連携による価値創出や、共創のヒントを得る機会を提供。令和8年度には、こうした学びを活かし、市民自身が『市民アートコーディネーター』として実践に挑む予定です。

※3)文化芸術活動を行う団体・市民をサポートし、アーティストや専門家と共に文化芸術の魅力を広める活動を担う



2. 市民同士の学び合いと視点の広がり



プログラムでは、単なるスキル付与にとどまらず、市民が学び合う姿勢を重視し、約15名が7月～11月で全6回のセッションに参加しました。参加者は、文化活動に必要な視点や、福祉・教育など他分野との連携方法を学びながら、『市民アートコーディネーター』の基本役割（つどう・つながる・つたえる）への理解を深めました。

対話や視察を通じて、「誰にとって心地よい場づくりをするのか」「どう伝えるべきか」といった問いも交わされ、最終回では参加者自身が感じた変化や今後の挑

戦の声が寄せられています。

活動を通じてー 参加した市民の声

- ◆関係者の思いをつなげることが大切にしたいが、思っていることを文章にして伝えることは想像以上に難しいと感じた。もっと伝えるスキルを磨きたい。
- ◆ごみ処理場の視察で、アートを通じてどのように問題を解決できるかグループで話し合った。自分では思いつかない発想に触れ、共創の効果を実感した。
- ◆市の文化、産業、歴史などに興味を持つ必要があることに改めて気づかされた。幅広く情報収集して、好奇心を持って魅力を伝えていきたい。

こうした学びと決意は、令和8年度の実践フェーズへの大きな一歩です。SPSは茨木市とともに、市民が自ら文化を育む基盤づくりをさらに進めてまいります。

3. 大阪府茨木市コメント

ー 人を育て、文化のすそ野を広げる挑戦

市民の皆さん自身が、文化芸術を広げていただく役割を担ってほしいと考えています。この取り組みは、自治体としても手探りの挑戦であり全国的にも珍しい試みです。イベントを開催するだけでなく、人を育て、まちを育てるという視点を重視しており、SPSの共創姿勢に大きく助けられています。今回のプログラムを通じて、関わる市民の皆さんが様々な交流を通じ茨木市への愛着を深め、文化芸術のすそ野が広がっていくことを期待しています。

茨木市市民文化部次長 兼文化振興課長 今西雅子様